



JAPANESE A1 – STANDARD LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS A1 – NIVEAU MOYEN – ÉPREUVE 1
JAPONÉS A1 – NIVEL MEDIO – PRUEBA 1

Tuesday 20 November 2007 (afternoon)
Mardi 20 novembre 2007 (après-midi)
Martes 20 de noviembre de 2007 (tarde)

1 hour 30 minutes / 1 heure 30 minutes / 1 hora 30 minutos

INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Write a commentary on one passage only. It is not compulsory for you to respond directly to the guiding questions provided. However, you may use them if you wish.

INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- Rédigez un commentaire sur un seul des passages. Le commentaire ne doit pas nécessairement répondre aux questions d'orientation fournies. Vous pouvez toutefois les utiliser si vous le désirez.

INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- Escriba un comentario sobre un solo fragmento. No es obligatorio responder directamente a las preguntas que se ofrecen a modo de guía. Sin embargo, puede usarlas si lo desea.

次の1 (a) の文章と1 (b) の詩のうち、どちらか一つを選んでコメントリー
(解説文) を書きなさい。

1 (a)

さて、私がどうやらシナリオを書けるようになると、山さんは、私に編集をやれ、と言っ
た。監督になるためには、編集ができなければならないことは、私にも解っていた。

編集は、映画における画竜点睛の作業だ。撮影したフィルムに命を吹き込む仕事だ。私は、
それを知っていたから、山さんに言われる一足先に編集室へ通っていた。(中略)

5 編集について、私が山さんから学んだことは山ほどあるが、その中で最も大切だと思っ
たことは、編集の時、自分の仕事を客観的に眺められる能力が必要だ、ということだ。

山さんは、苦勞して撮影した自分のフィルムを、まるでマゾヒストのように切った。

「黒澤君、昨夜、考えたんだが、あの〇〇のシーンは切れるよ。」

「黒澤君、昨夜、考えたんだが、あの××のシーンの前半を切ろう。」

10 山さんは、いつも、こんなことを言いながら、嬉しそうな顔をして、編集室に入つて来る。
切れる！切ろう！切る！

編集室の山さんは、まるで殺人狂だった。

切るくらいなら、撮らなければよいのに、と思つたこともある。私も苦勞したフィルムだ
から、切られるのは辛い。

15 しかし、監督が苦勞しようが、助監督が苦勞しようが、カメラマンやライトマンが苦勞
しようが、そんなことは、映画の観客の知つたことではない。

要は、余計なところのない、充実したものを見せることだ。

撮影する時は、もちろん、必要だと思うから撮影する。しかし、撮影してみると、撮影す
る必要がなかつたと気がつくことも多い。

20 いらぬものはいらぬのである。

ところが、人間、苦勞に正比例して、価値判断をしたがる。

映画の編集には、これが一番禁物である。

映画は時間の芸術、と言われているが、無用な時間は無用である。

編集について、山さんに学んだことの中で、これが最も大きい教訓であつた。

25 今、私が書いているものは、映画技術の本ではないから、編集の専門的な問題をこれ以上
書くのはやめる。

ただ、もう一つ、山さんの、編集に関する、エピソードを書いておきたい。

『馬』の編集の時である。(山さんは、この作品の編集を私に任せた。)

30 この『馬』のストーリーの中に、売られた仔馬を捜し求めて、母馬が走り回るところが
ある。そういう時、母馬は、まるで狂つたようになって、厩を蹴破つて飛び出すし、放牧
場まで行つて、その柵から中へもぐり込もうとさえする。私は、その母馬の気持が哀れで、

その表情や行動を克明に継ぎ、ドラマティックに編集した。

35

ところが、映写して見ると、少しも感じが出ていない。いくら編集し直しても、母馬の気持ち^{きもち}がその画面からにじみ出て来ないのである。山さんは、その私の編集したフィルムを、私と一緒に何回も見したが、黙っているだけだった。これでいい、と言わないのは、これではわるい、ということだ。私は、ほんとと困つて、どうしよう、と山さんに相談した。その時、山さんは、こう言った。

「黒澤君、ここは、ドラマではない。もの^{もの}のあわれ、じゃないのかね。」

40

もの^{もの}のあわれ、この古い昔の日本の言葉で、私は、目が覚めたように悟つた。

「わかりました！」

私は編集をまるつきり変えた。

ロング・ショットの情景だけを継いだ。

月の夜に、鬣^{たてがみ}や尾をなびかせて、走り回る母馬の小さなシルエットだけを重ねるように継いだ。

45

そして、それだけで、充分だった。

それは、音を入れなくても、哀しい母馬の嘶^{いなな}きが聞こえ、沈痛な木管^{もっかん}の調べが聞こえて来た。

(黒澤明『蝦蟇の油』一九九〇年)

- 筆者は映画を編集するということをどのように学び、どのようなことだと考えていますか。
- 二八行目の「黒澤君、ここは、ドラマではない。もの^{もの}のあわれ、じゃないのかね」という山さんの言葉は筆者にどのようなことを伝えたと考えられますか。また、筆者はそれをどのように具体化しましたか。
- 作者は語句や文体や表現にどのような工夫をしていますか。また、それはどのような効果を与えていますか。

1 (b)

すみなれた町の

すみなれた町の

あるきなれた道から すこしはずれて
はじめての道があるのが すき
ふつとあるきなれた道にもどれなくなつて
5 千里はなれた土地にきた 心細さのまま
暮れかかる路地をあるいていくのも すき

すみなれた町の

あるきなれた道から すこしはずれて

細い古道をあるくのも すき

10

えいえいと駆けていく鎧武者たちの息遣い
いあめがさの市女笠の女人の足音や願人坊主の勸進帳を
どろぞじんの道祖神とともに耳かたむけつつ あるいていくのも すき

すみなれた町の

あるきなれた道を すこしゆつくり

15

あるいていくのも すき
鉄鋼場のトンカントンカンいう音をうしろに
農家のSさんが丹精こめる 葱畑の出来ぐあいがめ
金木犀がおる路地に 折れていくのも すき

すみなれた町の

20

あちこちにまだあるいていない道があつて
その道をゆつくりさがすのが すき
戸口で赤ん坊をあやす 若いNさんと
シンデイ・シーハンについて話すのも すき
野生のたくましい猫にふとゆきかうのが すき

25 すみなれた町にも
 じつと^{じい}滲^{らん}んできた胡乱な^{らん}気配があつて
 川べりの寺の 故陸軍一等兵区さんの大きな墓石は
 みじろぎしないまま
 ファイリツピンでの飢えの日々を語っている

30 その墓石をなで
 境内に咲く ダイコン花の群集をながめるのが すき

(石川逸子「すみなれた町の」二〇〇六年)

- (注) 市女笠 もとは市女(女商人)がかぶった笠であるが、平安中期以降は上流婦人の外出時にも用いられた。
- 願人坊主 人に代わって願かけの修行などをした乞食僧。
- 勸進帳 社寺や仏像の建立・修繕などのため、金品を募り集める趣旨を記した文書。
- 道祖神 道路の悪霊を防いで行人を守護する神。
- シンデイ・シーハン イラク戦争で息子が戦死。ブツシユ大統領に「なぜ息子を殺したのか」を聞きただしたいと座り込みを続けた人。
- 胡乱 疑わしいことや不誠実なこと。
- 陸軍一等兵 第二次世界大戦中の日本軍の兵士。

- 「すみなれた町の」というくり返しから作者は何を表現しようとしていると思いますか。
- 第一連から第五連までの中から二つ以上の連を選び、その内容を比較し、作者の考え方の特色を述べなさい。
- この詩の中では、どのようなリズム・イメージ・比喩などが使われていますか。そして、それらによって、どのような効果が生じていますか。